



神医 FAXニュース

第500号

編集・発行 神奈川県医師会

毎月第1・第3水曜日発行

TEL.045-241-7000

FAX.045-241-1464

インターネットホームページ
http://www.kanagawa.med.or.jp

新型コロナウイルス感染症の 感染者数急増を受けて

—日医・中川俊男会長—

新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が10月以降、再び増加の兆しを示していることを受け、中川俊男会長は11月11日の定例記者会見で、手洗いやマスク着用など、基本的な感染予防対策の徹底を求めるとともに、年末年始においても「3密」を避けるよう呼び掛けた。

同会長は、北海道では11月7日に独自の5段階の警戒ステージが「2」から「3」に引き上げられたことを挙げ、「特に北海道での感染者数の急増は、人口を考えると大変憂慮すべき事態となっている」と強調。

政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会が9日に取りまとめた緊急提言の5つのアクション(①今までよりも踏み込んだクラスター対応、②対話のある情報発信、③店舗や職場などでの感染防止策の確実な実践、④国際的な人の往来の再開に伴う取り組みの強化、⑤感染対策検証のための遺伝子解析の推進)を評価した上で、「季節性インフルエンザの流行時期や年末年始を迎えることを踏まえ、国には、地域の感染拡大の兆候をできるだけ早期に察知して、先手の対応をとって欲しい」と要望した。

また、「Go To トラベル」について、赤羽一嘉国土交通大臣と加藤勝信内閣官房長官が会見において、北海道を現段階で除外する状況にはないとの認識を示したことに対し、「今後の感染拡大の状況を見ながら、急速な感染拡大の兆候が見られた場合は、柔軟に見直しを考えて頂きたい」と要請した。

その上で中川会長は、「全国的な感染者の急増が続けば、医療提供体制が全国で逼迫することは明らか。決して特定の地域の問題でなく、国民全体で一致団結して防いでいきたい。日本医師会はその中心となって頑張っていきたい」と述べ、感染をこれ以上広げないためにも、引き続き、「手洗い」「マスク着用」といった基本的な感染防止対策を徹底し、年末年始においても「3密」を避ける努力が大切であるとした。

記者との質疑応答では、現在の状況が波としてはいわゆる第3波と考えるとよいのではないかとの見方を示すとともに、気温の低下に伴い、全国的に感染者数が増えることが見込まれることから、換気の徹底なども強く求めた。

「日医君」だよりNo.458

新型コロナ対応の医療従事者へ 支援制度を創設

—日医—

日本医師会は11日の会見で、「新型コロナウイルス感染症対応医療従事者支援制度」を創設したと発表した。医療従事者が

同感染症にかかり、労災事故として認定された場合、労災保険等からの給付に加えて、補償金を給付する。死亡した場合は500万円、4日以上休業した場合は20万円を給付する。今村聡副会長は「医療従事者の安心を確保することも医療機関の重要な役割。より多くの医療機関に加入してほしい」と呼び掛けた。

加入できるのは、病院、診療所、介護医療院、助産所、訪問看護ステーションで、病院と診療所は保険医療機関であること。補償の対象者は労災保険等で給付対象となる全ての医療従事者で、アルバイトやパートタイマー、臨時雇いなども含む。医療資格者だけを対象とすることもできる。年間保険料は医療従事者1人当たり1000円だが、医療資格者は国や医療団体の補助金を充当することができ、無料になるケースもある。医療団体からの補助金は日医や日本看護協会に寄せられた寄付金を活用する。

日本医療機能評価機構の特設サイト(<https://jcqhc.or.jp/w-comp>)から申し込むことができる。12月1日からが保険期間となる第1期の募集は9日から開始した。来年2月まで募集する。

メディファクス11/12

令和2年度予防接種講演会 開催のご案内

標記の講演会を下記の日程により開催いたしますので、予防接種に関係される諸先生また、関心をお持ちの方々とお誘い合わせのうえ、ご参加いただきたく、ご案内申し上げます。

なお、参加をご希望の方は、県医師会地域保健課宛に、FAX(045-241-1464)またはE-Mail(chiiki@kanagawa.med.or.jp)にて12月24日(火)までにお申し込みいただきますよう、お願いいたします。

なお、FAX、E-Mailともに「予防接種講演会参加希望」と記載の上、「郡市医師会名」、「医療機関名」、「氏名(ふりがな)」、「連絡先電話番号」の明記をお願いします。

また、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、定員100名までとさせていただきますのでご了承ください。

記

日時 令和3年1月12日(火) 19時00分～20時00分

場所 横浜市中区富士見町3-1 (TEL045-241-7000)
神奈川県総合医療会館 7階講堂

座長 神奈川県医師会 公衆衛生委員会 委員

横浜市立大学 小児科学教室 教授 伊藤 秀一 先生

講師 博慈会記念総合病院

副院長

田島 剛 先生

演題 「ロタウイルスワクチンに関する最新の知見」(予定)

対象 会員、医療関係者 等

以上

最	旬	医	界	
		情		報

コロナ影響、7～9月も「対前年で厳しい経営状況が継続」

－ 3病院団体調査－

日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会の3病院団体は12日、2020年度第2四半期の新型コロナウイルス感染症の感染拡大による病院経営状況の調査結果を公表した。最も影響の大きかった5月と比べると、「可能な限りの努力により、徐々に改善傾向に向かっている」と説明。ただし、直近の9月については、患者数や手術件数が回復傾向にあるものの、対前年で完全には回復できておらず、改定年で薬剤費が実際の購入価格より低く計上されていることを踏まえると「対前年と比較し厳しい経営状況が継続している」とした。

9月のデータを見ると、医業利益は赤字となっているものの「極めて医業利益が落ち込んだ前年に比べ、医業利益率は見掛け上、改善している」とした。ただし、今年は改定年であり薬価交渉を9月に妥結する影響で、実際より薬剤費の購入価格が低く計上されている点に注意が必要との見方を示した。

今回の調査では、慰労金を除く緊急包括支援交付金の請求・入金状況も確認した。都道府県ごとにばらつきは見られるものの、「第2四半期に入り、徐々に交付金が各病院に届きつつある」とした。ただし、これまでの医業収支の悪化状況や今後の冬季賞与の支払いなど、病院の資金需要が増加することを見据え「近未来の病院経営を再考する時期に来ている」と指摘。地域での医療提供体制を維持するため、「スムーズな緊急包括支援交付金の支給が極めて重要」との見解を示した。

調査はアンケート形式で10月12日～11月5日の期間に、3団体に加盟する全4410病院を対象にメール配布で実施した。回答数は1533病院（有効回答率34.8%）だった。

メディファクス11/13

抗原簡易検査キットの1日平均20万件、来年1月以降に

－厚労省－

厚生労働省は4日の新型コロナウイルス感染症に関する報道向けの説明会で、新型コロナとインフルエンザの同時流行を見据えた対策パッケージに盛り込んでいる抗原簡易検査キットを用いた1日平均20万件程度の検査の実施について、必要な検査キット数を確保して実際に20万件を実現できる体制が整うのは

来年1月以降になるとの見通しを示した。

厚労省の担当者は、1日平均20万件程度の検査需要に対応できるように、メーカー3社に検査キットの製造を要請していることを紹介。その上で「メーカー各社の現時点での最大生産可能キット数を積み上げれば、来年1月ごろまでに約2000万件の抗原簡易キットの供給が可能と回答を得ている」と話した。

約2000万件については、インフルと同様に流行が20週間続くと仮定し、週当たり5営業日で20万件の検査ができる数字と説明した。

メディファクス11/5

ファイザーのコロナワクチン、中間解析で有効性

－ 9割に予防効果－

米ファイザーと独ビオンテックは10日までに、新型コロナウイルスに対するメッセンジャーRNAワクチンとして開発を進めるBNT162b2について、米国やドイツ、南米などで実施中の臨床第2/3相（P2/3）試験の有効性の中間分析において、参加者の90%以上に感染予防の効果が確認されたと発表した。

同試験には4万3538人が登録され、8日時点で3万8955人が2回目の投与を受けている。外部の独立評価委員会が行った中間解析では、同ワクチンを2回目に投与されてから7日後に参加者の90%以上で予防に関する有効性が示された。

現在まで安全上の懸念は見つかっていない。今後、安全性に関するデータの確認をもって今月第3週にも、米国食品医薬品局（FDA）に対して緊急使用許可の申請を行う予定だ。

メディファクス11/12

ロシアのワクチン有効性92%

－臨床試験で中間結果を発表－

ロシアが世界で初めて国家承認した同国の新型コロナウイルス感染症のワクチン「スプートニクV」に関し、開発した国立研究所などは11日、発症を防ぐ有効性が92%に上ったとする最終第3段階の臨床試験の第1回中間結果を発表した。

米製薬大手ファイザーが9日、開発中のワクチンの有効性が90%以上に上ったとする臨床試験の暫定結果を発表したばかりで、対抗する狙いもあるとみられる。

スプートニクVの臨床試験は最終的に4万人を対象に実施する予定。中間発表によると、約1万6000人にワクチンか偽薬を接種した21日後、被験者20人が感染した。ワクチンを接種した人と偽薬を接種した人を比較すると、発症を防ぐ有効性は92%だった。臨床試験の詳細な内容は明らかにされていない。

ワクチン接種者の一部に短期間の体温上昇や頭痛などの副作用があったが「予測不能の好ましくない症状はなかった」としている。被験者の観察を6カ月続け、最終報告書を作成するという。

メディファクス11/13